民生教育委員会行政視察報告書

1　視察期間

平成28年8月1日から平成28年8月3日まで　3日間

2　視察都市

⑴　茨城県常陸太田市

⑵　千葉県我孫子市

⑶　富山県富山市

3　参加者

加藤文重委員長、草地博昭副委員長、芦川和美委員、太田佳孝委員、松野正比呂委員、根津康広委員、岡實委員、加藤治吉議長

同行　髙比良紀惠子子育て支援課長

随行　平野貴章主任

4　視察事項

⑴　市の概況について（3市）

⑵　子ども・子育て支援について（常陸太田市）

⑶　子ども・子育て支援について（我孫子市）

⑷　子ども・子育て支援について（富山市）

5　考察

次のとおり

Ⅰ　常陸太田市　人口：51,855人・面積：371.99㎢（平成28年４月１日現在）

１　子ども・子育て支援について

⑴　概要

常陸太田市では「子育て上手常陸太田」をスローガンに掲げ、人口減少対策の一環として、子ども・子育て支援について力を入れている。所管課は「少子化・人口減少対策課」で、子育て支援に関する政策企画のほか、若い世帯へのＰＲも一貫して行っている。

短期的施策としては、①新婚家庭の家賃助成（月２万円）②住宅取得促進助成（新築２０万円）③市内金融機関との連携による「子育て支援住宅ローン」（店頭金利から1.6%引き下げ）④民間賃貸住宅建築促進助成（固定資産税５年（建物））⑤市営住宅の入居要件緩和⑥「子育て上手常陸太田」のパンフレット等による市内外へのＰＲ⑦「子育て上手常陸太田推進隊」の組織化と口コミによるＰＲなどが挙げられる。家賃助成の申請は、２２年度から２７年度までの実績で約４００件であり、申請者の７割が当制度がきっかけとなり常陸太田市に転居したとのことである。

結婚する人を増やすことを目的とした施策では、①企業誘致等による雇用の安定②出会いの場の創出として、結婚相談センター「ＹＯＵ愛ネット」の運営や出会いイベントの開催、結婚活動応援事業を展開している。結婚相談センター「ＹＯＵ愛ネット」は、専任の相談員３名がお相手探しからお見合いまでサポートする制度で、会員数２００名超、成婚数は２２年度から２７年度までで９９組であった。

子供の数を増やすことを目的とした施策では、①不妊治療費助成②妊産婦医療費助成③乳児のおむつ購入費助成（２万円）④給食費の減額⑤放課後児童クラブの全域設置などが特徴として挙げられる。乳児のおむつ購入助成の申請は、毎年２５０件程度でほぼ出生数と同じ数の申請がある。給食費は、幼稚園・小中学校で２分の１の減額を行っている。

⑵　考察

常陸太田市では、非常に多岐にわたる子育て支援施策を行っている。体制は、「少子化・人口減少対策課」を設置し、基本的に人口減少対策のために行っているが、各所管課との連携がキーポイントであると感じた。常陸太田市の今後の人口の推移、とりわけ転入者数と出生数について継続して推移を見守り、本市でも有効な施策は取り入れていきたいと感じた。

Ⅱ　我孫子市　人口：131,509 人・面積：43.15 ㎢（平成 28 年４月１日現在）

１　子ども・子育て支援について

⑴　概要

我孫子市では、「我孫子市放課後子ども総合プラン行動計画」にもとづき、全ての児童の安全・安心な居場所づくりをテーマに掲げ、「放課後子ども教室（あびっ子クラブ）」と「学童保育（放課後児童クラブ）」の連携について特徴的な取り組みをしている。

学童保育室（放課後児童クラブ）は、平成１９年に厚生労働省が、「放課後児童クラブガイドライン」により運営の基本的事項を示し本格的にスタートした。また同年、放課後子ども教室についても文部科学省による補助事業として行われ、放課後の全児童対策や地域住民の交流活動支援として、学校を拠点にスタートさせた。

我孫子市では、「全ての児童」を対象にして、学校施設を活用した放課後等の居場所を計画的に整備してきた。２１年度からは、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な運営をスタートさせた。

学童保育の目標事業量としては、市内１３校すべてに学童保育室を設定しているためそれぞれの学校ごとに定めている。昨年度から国における最低基準「専用区１．６５㎡/人」が適用されたため、定員数が減少し、面積が確保できないところはあびっ子クラブを設置し、あびっ子クラブと学童保育室を常に連動させる形としている。あびっ子クラブは平成２９年度までに１２校とする予定である。

あびっ子クラブの特徴は、①年間２９０日、午後５時まで開いていること②いつでも好きな時に遊べること③地域の人材を先生とした体験活動ができること④登録料は年間５００円で全ての児童を対象とすることなどが挙げられる。両事業は、同じスタッフで運営できるようにシフトを組んでおり、コーディネーター役が調整を行っている。

⑵　考察

放課後子ども教室の運営は、地域の保護者にとってどれほどの安心感になっているか、直接話を聞くことはできなかったが、登録率が非常に高いことからも、一定の効果があると考えられる。本市は、放課後児童クラブの待機はないが、放課後子ども教室の需要がどの程度あるのか、市民の声を聴く必要があるのではないかと感じた。

Ⅲ　富山市　人口：418,179 人・面積：1,241.77 ㎢（平成 28 年４月１日現在）

１　子ども・子育て支援について

⑴　概要

富山市では、子ども図書館と子育て支援センターを併せた「とやまこどもプラザ」を、平成２４年度に整備し、とやま駅南図書館とあわせた複合施設として開設をした。とやまこどもプラザでは、子育て支援の拠点として両施設が連携を図りながら、親子の読書活動を応援するとともに、子育て家庭等の相談・交流の場づくりを行っている。また、駅から徒歩３分という好立地にある。

こどもプラザの特徴は、①こども図書館と支援センターの意匠を統一し、壁を作らないようにして一体感を持たせたこと②トイレ、通路（子供用のトイレやベビーカー置き場など）は、相互の利用者が使いやすいように配置したこと。③子ども同士や親子が過ごせる場所を館内の各所に配したことである。

コンセプトは、「おもちゃ箱をひっくり返したような」であり、非常に明るいカラーリングとリズミカルなデザインの空間であった。管理は、プロポーザル方式により、紀伊國屋書店が月額約２４０万円で委託を受けており、駅南図書館と同じカウンターで貸出業務を行っている。

併設の子育て支援センターは、こどもひろば、ことばの発達支援室、相談室、ファミリーサポートセンターを機能として有し、市内中心部の子育て相談を受けている。職員は１４人で、ファミリーサポートセンターは７人。こども図書館への来館者の多くが、子育て支援センターも利用しているとのことだった。

⑵　考察

こども図書館と子育て支援センターの併設が、子育て世代にはより効果があることが理解できた。本市で新設されるこども図書館に子育て相談機能をどのように併設させるか、また図書館の機能にどうやって子育て世代の声を反映させるか等が課題であり、十分な検討が必要であると感じた。